

今年も目指そう 1等比率90%以上!!

平成30年3月10日
 いなば農業技術者協議会
 ○事務局【JAいなば営農生産課】
 小矢部市赤倉97 TEL67-8000
 【西部支店】67-8200 【東部支店】67-8300
 【南部支店】61-8900 【福岡支店】64-8600
 ○高岡農林振興センター 26-8480

稲作管理情報 第1号

1 春の土づくり

土づくり資材や有機物の継続的な施用、深耕しに取り組み、気象変動に強いメルヘン米生産に努めましょう。

◎土づくり資材(ケイ酸・アルカリ)の施用

資材名	施用量(10aあたり)
元気・省力ケイカル(粒)	45kg 以上
カリ入元気	60kg 以上
有機カリ入シリカロマン	80kg 以上
ケイカル(粒) ハイタフ特号(粒) アサヒニューテツ	100kg 以上

◎有機物の施用(春施用:いずれか施用)

堆肥の種類	施用量(10aあたり)	基肥減肥量(10aあたり)
発酵鶏糞	75~100kg	窒素分で1~2kg
牛糞堆肥	1t	窒素分で1~2kg
籾殻堆肥	2t	減肥不要

堆肥を春施用する場合は、土質や地力を考慮し、基肥量を調整(減肥)しましょう。

◎作土が浅い(15cm未満)と、根域がせまく気象変動の影響を受けやすくなる他、秋落ちしやすくなります。秋耕しができなかった場合は、トラクターの耕耘速度を遅くしてロータリーをかけ、15cm以上の作土深を確保しましょう。

2 育苗計画 ~計画的な播種作業で健苗育成~

平地でのコシヒカリの田植えは5月15日を中心に設定し、
 浸種は4月16日頃、播種は4月25日頃を目安に計画しましょう。

①育苗日数は20日間以内を目安としましょう。

育苗日数が長くなると、徒長苗や老化苗につながり、初期の強勢な分けつの発生が少なくなります。
 (右図参照)

②田植日に合わせ播種日を設定しましょう。

播種日が早いと、田植時期を遅らせても老化苗となり、出穂日も早回ることから、遅植えの効果がなくなります。

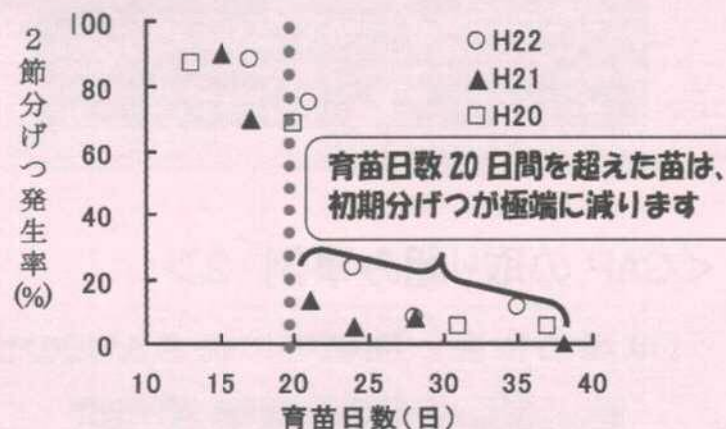


図 育苗日数と初期分げつの関係

◎計画作成例【コシヒカリ(平地):5月15日田植えの育苗計画】

4月														5月																	
14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火
浸種(7日間程度)							タフブロック 種子消毒		催芽	陰干し	播種	出芽	搬出	育苗(播種日含めて20日間)											田植え						
・浸種水温は10~15℃を確保															※ハウス内の温度が30℃以上の場合、速やかに換気する。																
・浸種積算温度は100℃以上を確保															(緑化)			(硬化)			夜間も換気を行う										

3 てんたかく・てんこもりの作付け拡大

◎てんたかく・てんこもりは、①短稈で倒伏しにくい、②出穂後の高温に強く、外観品質も高い、ことから需要が増えています。コシヒカリとの作業分散を図り、適期の作業を行うためにも品種構成を見直しましょう。

裏面へ続く